

行事予定

2018(平成30)年9月～12月

【特別展／企画展】

7月17日(火)～10月20日(土)
2018年度企画展Ⅰ
「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちとその拡がり—」
【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

11月2日(金)～12月13日(木)
2018年度國學院大學博物館×西南学院大学博物館共同特別展
「キリシタン—日本とキリスト教の469年—」
【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月3日(月)～1月11日(金)
2018年度博物館実習成果展
【場所】西南学院大学博物館1階常設展示室

【特別展／企画展関連イベント】

10月6日(土) 13:00～16:10
西南学院大学博物館企画展関連公開シンポジウム
「東方キリスト教との出会い」
【会場】西南学院大学博物館2階講堂
※申し込み不要、参加無料

12月8日(土) 14:00～16:00
國學院大學博物館×西南学院大学博物館共同特別展
関連ミュージアムセッション
「島原・天草一揆と禁教」
【会場】西南学院大学博物館2階講堂
※申し込み不要、参加無料

【ワークショップ】

11月10日(土)
「和綴じでつくる!myノート」
【時間】14:00～16:00
【場所】西南学院大学博物館、西南コミュニティセンター
【対象】大人
【参加費】無料
【申込方法】11月2日(金)までに、メール・FAX・または直接お申込みください。詳しくは博物館ホームページをご確認ください。

【臨時休館】

10月29日(月)～11月1日(木)、12月14日(金)

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、
年末・年始[12/28～1/5]、その他は臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](#) [@seinan_museum](#) [@seinan_museum](#)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

母の母校の歴史を知ることができ、良い思い出となりました。ありがとうございました。(2018年5月)

卒業以来6年ぶりに来館しました。山田先生の企画展、すごく楽しめました。シリーズということなので、次回の展示も楽しみにしています。(2018年6月)

スタンプラリーをしました。何回来ても楽しいですね。コースターもキリスト教のオリジナルコースターでかっこいい!!新しいコースターを楽しみにしています。お宝クイズラリーも楽しかったです。がんばってください!!! (2018年7月)



研究室訪問シリーズ「地下墓地カタコンベの世界」には、山田先生にゆかりのある卒業生の方も多数足を運ばれていたようです。また、6月に開催した「お宝をさがせ!クイズラリー」には、たくさん子どもたちが参加してくれました。来館者ノートにもぎやかな文字が見られます。さて、7月17日から、企画展「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちとその拡がり—」が開催されています。スタッフ一同、心よりご来館をお待ちしております。

学芸調査員 鬼東 芽依

編集後記

博物館ニュースvol.35をお届けします。本文でお知らせしました通り國學院大學博物館との共同特別展を開催しています。巡回展で、西南学院大学博物館での展示は11月2日(金)から始まります。それぞれの館でのみの展示品もございますので、両館に足をお運びいただけましたら幸いです。

学芸研究員 野藤 妙

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車...約17分
- 博多駅 → 西新駅下車...約12分
- 天神 → 西新駅下車...約8分
- ※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
- 天神 → 修猷館前...約20分
- ※修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 35 2018.9

◎西南学院大学

所蔵品紹介	【関谷定夫コレクション】「テフィリン(聖句箱)」
聖書植物園紹介	イチジク
特別展紹介	キリシタン—日本とキリスト教の469年—
博物館通信	企画展「東方キリスト教との出会い」ほか



所蔵品紹介 特集

【関谷定夫コレクション】

テフィリン(聖句箱)

Tefillin (Phylactery)
プラスチック製／ベルト：革製



テフィリンはユダヤ教の伝統において、祈りの時に身につける聖書の句が入った小箱です。13歳の成人式(バル・ミツヴァ)を終えたユダヤの成人男子は、平日の朝の祈禱時にテフィリンを着用して祈ります。

「テフィリン」とは「祈り」を意味するヘブライ語の「テフィラー」に由来し、「祈りの帯」を意味します。聖句を身につける習慣は、「これをしるしとして自らの手に結び、覚えとして額につけなさい」(申命6,8)という旧約聖書の律法の言葉に基づいています。

聖句を記した羊皮紙



テフィリンには「頭のテフィリン」(テフィリン・シェル・ローシュ)と「手のテフィリン」(テフィリン・シェル・ヤド)の二つがあり、これらが一緒に用いられます。頭につける黒い小箱のテフィリンの中には、4葉の聖句を記した羊皮紙がたたんで収められています。そこには、『出エジプト記』13章1-10節、同13章11-16節、『申命記』6章4-9節、同11章13-21節の断章が記されています。これらの断章は、「神への愛」と「エジプトからの脱出」を思い起こさせ、テフィリンとして「しるし」となった律法に対し、人々が従順であることを求めています。

聖句を取めた小箱の底部には黒い革紐がついています。この革紐を額の中央と左腕の内側とに巻きつけ、小箱を身体に固定します。紐は腕に7廻り、中指に3廻り巻き付けられます。テフィリンは週日の祈禱時に着用されます。安息日に着用しないのは、安息日はそれ自体が「しるし」であるため(出エジプト31章17節)、テフィリン着用の必要がないと解されているためです。

学芸調査員 宮川 由衣

聖書植物園の「イチジク」

聖書植物園 HP <http://www.seinan-gu.ac.jp/shokubutsu/>

【聖句】 いちじくの木から教を学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。はっきり言っておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。(マルコ13:28-30、マタイ24:32-34、ルカ21:29-32)

イチジクは中東原産のクワ科の落葉高木です。漢字で無花果と書くのは、花を咲かせずに実をつけるように見えることに由来しますが、実際は初夏にイチジクの実の内面に花を咲かせます。メソポタミアでは6000年以上前から栽培されており、最も古い栽培果樹です。日本には江戸時代初期に中国を経て長崎に伝来しました。

聖句において、イエスは、イチジクの木を使って、この世の終わりに備えるようにと論じています。イチジクについての記述は旧約聖書、新約聖書を通して多くみられ、聖書の中で最初に名前が出てくる植物です。アダムとエバが禁断の木の実を食べて、自分たちが裸であることを知ったとき、腰を覆うものとしてイチジクの葉を用いました(創世記3章7節)。イチジクは聖書の地の七産物(申命記8章8節)の一つに数えられており、聖書の世界において、その木の下に住むことは、幸福、平和、豊かさの象徴となっています。本園のイチジクは聖書の地の自生種で、その果実は熟しても緑色のままであることが特徴です。



イチジクの実

【和名】イチジク
【英語名】fig tree
【学名】*Ficus carica*
【所在】大学チャペル西



イチジクの葉

学芸調査員 西山 萌



博物館通信

2018年6月から8月までに行った博物館活動や出来事の中からいくつかをご紹介します。

- 6月1日(金)～6月30日(土)
せいなんこどもワークショップ
「おたからをさがせ!クイズラリー」を実施しました。
- 6月29日(金)～10月11日(木)
國學院大學博物館×西南学院大学博物館
相互貸借特集展示 XX
「国分寺と古代瓦」の展示を開始しました。
- 7月17日(火)～10月20日(土)
2018年度西南学院大学博物館企画展I
「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちとその拡がり—」の展示を開始しました。

- 7月23日(月)～10月13日(土)
南島原市×西南学院大学博物館 相互貸借特集展示XII
「中世・有馬領内の信仰」の展示を開始しました。
- 7月24日(火)
せいなんおでかけワークショップ in 口之津図書館
「天草四郎をエコ・デコレーション」を実施しました。
- 7月25日(水)
せいなんおでかけワークショップ in 原城図書館
「歴史クイズ&ゲーム 原城のナゾ」を実施しました。
- 7月28日(土)
企画展I関連イベント せいなんこどもワークショップ
「オリジナルフォトフレームをつくらう!」を実施しました。



「国分寺と古代瓦」



「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちとその拡がり—」



「中世・有馬領内の信仰」



「天草四郎をエコ・デコレーション」



「歴史クイズ&ゲーム 原城のナゾ」



「オリジナルフォトフレームをつくらう!」

特別展紹介

次回開催

2018年度 西南学院大学博物館×國學院大學博物館共同特別展 キリシタン -日本とキリスト教の469年-

[長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産] 世界文化遺産登録記念

東京会場

会期/2018年

9月15日(土)～10月28日(日)

会場/國學院大學博物館企画展示室

福岡会場

会期/2018年

11月2日(金)～12月13日(木)

会場/西南学院大学博物館1階展示室、2階講堂

主催/西南学院大学博物館、國學院大學博物館

開催概要

日本にキリスト教が伝来したのは、1549(天文18)年のことです。しかし、豊臣秀吉が最初の伴天連追放令を布いた1587(天正15)年以降、徐々にキリスト教の布教に制限が加えられていきました。キリシタンたちは、江戸幕府の禁教令や、島原・天草一揆などが進展する中で、潜伏して信仰を守るか、棄教するかを選択せざるを得なくなってきました。再び公の布教が可能になったのは、明治維新を経てしばらく後のことでした。本展覧会では、海外から流入する諸文化を換骨奪胎してきた日本に、如何にしてキリスト教が根を下ろそうとしてきたのか、その歩みを辿っていきます。そこでは、受け入れる立場にあった日本側の試行錯誤も見出すことができます。

なお、本展覧会は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録を記念し、「西南学院大学博物館と國學院大學博物館との研究協力に関する協定書」に基づく共同特別展として実施いたします。

関連イベント 参加無料

ミュージアムセッション **申込み不要**

「島原・天草一揆と禁教」

講師/木村 直樹 氏(長崎大学)「島原・天草一揆と牢人」
安高 啓明 氏(熊本大学)「踏絵の実態と禁教認識の伝播」

日時/12月8日(土) 14:00～16:00

会場/西南学院大学博物館2階講堂

せいなんワークショップ

和綴じでつくる!myノート

日時/2018年11月10日(土)

14:00～16:00

会場/西南学院大学博物館

対象/大人

定員/20名

参加料/無料

申込締切/11月2日(金)



展示構成

序章

日本宗教の重層性

第1章

キリスト教の伝来と普及

- 1節 フランシスコ・ザビエル来航—イエズス会の適応主義—
- 2節 キリスト教の定着—キリシタン版と聖品—
- 3節 海を渡った日本人キリシタン—天正遣欧使節の足跡—

第2章

禁教政策の展開

- 1節 受難のはじまり—パテレン追放からキリシタン禁制へ—
- 2節 島原・天草一揆—悪政に抗して—
- 3節 江戸幕府の禁教政策—民衆統制と「崩れ」—

第3章

キリスト教解禁への道程—開国と明治—

- 1節 「信徒発見」と再布教
- 2節 浦上四番崩れ—キリシタン最後の「旅」—
- 3節 明治の宗教政策とキリスト教解禁

第4章

「かくれキリシタン」の伝統

…………… 終章 ……………

ワークショップ申し込み方法

「参加者氏名(ふりがな)」「性別」「生年月日」「年齢」「緊急連絡先電話番号」「メールアドレスまたはFAX番号」の必要事項を明記の上、メール(seinanmuseum@yahoo.co.jp)またはFAX(092-823-4786)にて、11月2日(金)までにお申し込みください。

※定員に達し次第、申し込みを締め切らせていただきます。
※個人情報は、保険加入手続き、統計、博物館・ワークショップに関するご連絡以外に使用いたしません。
※ワークショップ当日に写真撮影を行います。写真は博物館ホームページ、SNS、刊行物等で公開することがあります。